



第3問 答案用紙 <1>
(会 計 学)

問題 1

問 1

① 1,927,280 千円	② 130,280 千円	③ 26,665 千円
④ 420,000 千円	⑤ 229,000 千円	⑥ 1,330 千円
⑦ 109,718 千円	⑧ 10,800 千円	

問 2

(1)

会社法では、配当(≠分配)可能額の範囲内で行われなければならないが、どの位配当に回して良いのかを正確に知れるようにするため。

(2)

株主資本の各項目と株主資本以外の各項目では、会計期間における変動事由の重要性が異なるため情報の有用性の観点から両者の表示方法に差異が設けられている。



第3問 答案用紙 <2>
(会 計 学)

問題 2

問 1

① 500,000 千円	② 2,000 千円	③ 950,000 千円
④ 100 千円	⑤ 200 千円	⑥ 3,000 千円
⑦ 2,711,000 千円	⑧ 1,590,000 千円	⑨ 474,000 千円
⑩ 千円		

問 2

(1)

実績主義：年度の財務諸表と中間財務諸表の会計基準を並列と捉え、年度と同じ会計基準、会計処理を用いて年度と同じ貸借対照表、損益計算書、包括利益計算書、キャッシュフロー計算書を作成する。

予測主義：中間財務諸表を年度の財務諸表の構成要素のひとつと捉え、年度とは部分的に異なる会計基準、会計処理を用いて将来の業績予測に資する情報を提供のために作成される。



1503

第3問 答案用紙 <3>
(会 計 学)



(2)

将来の業績予測に資する情報を提供するためには
季節的変動を加味した原価差異の繰延処理を認め
たほうが情報の有用性が高まるため。

問 3

前年度の税率を用いることができる。

評	点